

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ジョイジョイ		
○保護者評価実施期間	2026年2月13日		～ 2026年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年2月13日		～ 2026年3月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	今年度は個別療育のみだったこと。	利用者とスタッフが親密な関係性を築きながら、利用者の状態に寄り添えたところ。	日々の成長を感じながら、その日その日の利用者の調子に合わせてたり、挑戦する場面も作りながら関わっていく。
2	利用者全員が年長で、就学に向けた支援が出来たこと。	事業所が提供している音韻指導や数の概念を取り込む安曇野プランなどのプログラムを提供できたところ。	全員、放課後等デイサービスに移行したので、引き続き学習の支援をしていく。
3	保護者との会話が積極的に来たこと。	送迎時でのやり取りが多かったので、限られた時間内であったところ。	電話やLINEなども積極的に活用していく。保護者によっては、連絡などを遠慮される方もいると思うので、事業所側から密な連絡をすることを心掛けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今年度は1名のスタッフが中心に行っていたので、チームでプログラムの立案に関わることが少なかった。	今年度、関わっていたスタッフが退職となるので、児童発達支援の指導員がいなくなること。	新しく、児童発達支援に関わる指導員を掘り起こし、来年度は継続できるように人材を確保する。
2	今年度は個別療育のみであったので、集団活動が難しかった。	指導員が1名だったため、集団での療育が出来なかったこと。	人材を確保しながら、個別、集団での療育が出来るように取り組む。
3	小学生以上との交流が少ないこと。	スペースの問題や活動内容に違いがあること。	就学に向けた取り組みの一つとして、就学生との遊びを通しての繋がりを提供することで、コミュニケーション向上に繋がるようにする。